

第3期八戸圏域連携中枢都市圏ビジョンの策定について

1. 第3期ビジョンの策定について

- 八戸圏域では、第2期ビジョンで掲げた将来像「地域の個性が輝き 自立した 八戸圏域」の実現に向けて各種取組を推進してきた。
 - 他方、人口減少の急速な進行や自然災害の激甚化・頻発化、デジタル化やグリーン社会実現に向けた動きの加速化など、圏域を取り巻く環境は大きく変容している。
 - また、公共施設の老朽化や専門人材の人手不足といった、様々な資源制約の今後更なる深刻化も予想されている。
- ※ こうした資源制約に対する課題意識については、国においても同様の認識があり、先般改正された「連携中枢都市圏構想推進要綱」においては、公共施設の集約化や専門人材の確保等が、圏域内で連携して取り組むべき重点項目として新たに位置付けられたところ。
- 以上を踏まえ、当圏域が今後も持続的に発展するためには、8市町村が将来ビジョンを共有し、これまで培ってきた連携体制を更に強化することが不可欠であることから、令和9（2027）年度を開始年度とする、八戸圏域の中長期的将来像と具体的取組を示す新たなビジョンを策定する。

2. 策定に向けた取組・検討事項

（1）事業成果検証等の実施

- 第2期ビジョンに基づく連携事業について、ワーキング・グループ（WG）において成果検証を実施し、既存事業の見直し及び新規事業の検討を行う。
- WGの検証結果を踏まえて第3期ビジョンで取り組む連携事業を決定する。

（2）第3期ビジョン検討部会の設立

- 次期ビジョンの策定プロセスにおいては、企画担当部署や首長だけでなく、若手職員の柔軟な発想や革新的なアイデアを取り入れることが重要であるとの考えから、若手職員で構成される「第3期ビジョン検討部会」を設立する。
- 検討部会では、ワークショップ形式により、八戸圏域の分析、ビジョン冊子のレイアウト・デザイン検討、将来都市像に関する意見交換等を行う。

（3）ビジョン冊子のレイアウト及びデザインの検討

- 第2期ビジョンは約100ページとボリュームが大きく、圏域住民及び職員にとって熟読が困難であったため、第3期ビジョンでは、掲載するデータ数や掲載内容の標記方法を見直すなど、読み手に配慮したレイアウトの最適化・総ページ数の削減を図る。

3. 策定スケジュール

策定作業については、十分な検討・作業期間を確保するため、作業期間を令和7年度から令和8年度の2ヵ年度とする。

【令和7年度】

実施時期	内 容	実施主体
R7.6月～12月	連携事業の成果検証・分析（1回目）	WG
R7.6月～R8.1月	第2期ビジョンの総括的分析	・企画担当課長 ・ビジョン検討部会
本日	ビジョン懇談会の開催	・事務局 ・懇談会構成員
R7.10月～11月	第3期ビジョン検討部会の運営・開催	・事務局 ・ビジョン検討部会
R8.2月	第3期ビジョン策定方針の決定	市町村長
R8.2月	ビジョン懇談会の開催	・事務局 ・懇談会構成員

【令和8年度】

実施時期	内 容	実施主体
R8.4月～5月	連携事業の成果検証・分析（2回目）	WG
R8.4月～8月	第3期ビジョン（一次案）の作成	事務局
R8.7月	ビジョン懇談会の開催	・事務局 ・懇談会構成員
R8.9月～11月	第3期ビジョン（二次案）の作成	事務局
R8.12月	パブリックコメントの実施	事務局
R9.1月～2月	第3期ビジョン（最終案）の作成	事務局
R9.2月	ビジョン懇談会の開催	・事務局 ・懇談会構成員
R9.3月	第3期ビジョン策定	市町村長